

全部で33基の山と鉾

前祭	長刀鉾 ながなたほこ	鉾先に厄病邪悪を祓う長刀を付けている。「鬨取らず」として必ず巡行の先頭に立つ。生稚児が乗るのはこの鉾だけ。
	函谷鉾 かんこほこ	孟嘗君(もうしようくん)が鶏の声によって函谷関を脱出できたという中国の故事にちなむ。真木(しんぎ)には孟嘗君、その下には雌雄の鶏が飾られている。
	菊水鉾 きくすいほこ	町内にあった菊水井戸にちなんで名付けられた。鉾頭には金色の菊花をつけ、真木には中国古代の伝説上の人物・彭祖(ほうそ)像を祀る。
	月鉾 つきほこ	鉾頭に新月型をつけ、真木のなかほどに月読尊(つきよみのみこと)を祀る。屋根裏の草花図は円山応挙の筆。胴懸はインドやトルコの絨毯を用いている。
	鶏鉾 にわとりほこ	中国堯(ぎょう)の時代、天下がよく治まったため訴訟用の太鼓に苔が生え鶏が巣をつくったという故事による。鉾頭の三角形の中の円形は鶏卵が太鼓の中にある意味を表すという。
	放下鉾 ほうかほこ	真木のなかほどに放下僧(ほうかそう)(田楽から転化した大道芸を行う僧形の芸能者)を祀る。鉾頭は日・月・星の三光が下界を照らす形を示す。
	岩戸山 いわとやま	天照大神の岩戸隠れの神話にちなむ。山とはいえ鉾と同じく車輪をつけた曳山で、鉾柱のかわりに屋根上に真松を立てている
	船鉾 ふねほこ	神功皇后の説話にちなみ、舳先に中国の想像上の水鳥・錦(げき)を付ける。鉾の上には神功皇后と磯良(いそら)・住吉・鹿島の三神像を祀る。
	山伏山 やまぶしやま	山伏姿のご神体は、傾いた八坂の塔を法力によって直したという浄蔵貴所(じょうぞうきしよ)の姿を表す。左手に数珠、右手には斧を持つ。
	孟宗山 もうそうやま	筍山ともいい、ご神体は病身の母を養う孟宗が、雪の中で筍を掘り当てた姿を表す。雪をかぶった筍を持ち、鎌を肩にかついで立つ。
	太子山 たいしやま	古来四天王寺建立にあたり、自ら山中に入って良材を求めた聖徳太子を祀る。ほかの山が真木に松を立てているのに対し、この山は杉を立てる。
	郭巨山 かつきよやま	中国の郭巨が黄金の釜を掘りあて、母に孝養を尽くしたという故事にちなむ。郭巨が釜を振り降ろす時地中より黄金一釜が出てきた姿を表す。
	保昌山 ほうしょうやま	丹後守平井保昌(ひらいやすまさ)と和泉式部の恋物語に由来し、保昌が式部のために紫宸殿(ししんでん)の紅梅を手折ってくる姿を表す。
	油天神山 あぶらてんじんやま	古くから町内に祀られていた天神を勧請してつくられ、油小路にあることからこの名で呼ばれる。正面に朱の鳥居を立て、社殿には天神像を祀る。
	四条傘鉾 じょうかさほこ	山鉾の古い形態を残す傘鉾のひとつ。赤熊(しゃぐま)を被った棒振りか鉦、太鼓、ササラに合わせて踊る棒振り囃子と、大きな傘が巡行する。
	蟻螂山 どうろうやま	足利軍と戦って戦死した四条隆資(じょうたかすけ)の戦いぶりが中国の故事「蟻螂の斧」のようであったことから、四条家の御所車に蟻螂を乗せて巡行したのが始まりといわれる。
	伯牙山 はくがやま	中国の周時代、琴の名人・伯牙が友人鍾子期(しょうしき)の死を聞いて、琴の絃を断ったという故事を表す。ご神体は手に斧を持ち、前に琴が置かれている。
	木賊山 ときさやま	謡曲「木賊」に由来し、我が子を人にさらわれ、一人で木賊を刈る翁を表す。ご神体は腰に蓑をつけ、左手に木賊、右手に鎌を持っている。
	霰天神山 あられてんじんやま	都が大火に見舞われたとき、霰が降って猛火がたちまち消え、一寸二分の天神像が降ってきたという伝承がある。この天神像を火除けの守り神として町内に祀ったことに由来する。
	白楽天山 はくらくてんやま	唐の詩人・白楽天が道林禪師に仏法の大意を姿を表す。松の枝の上に座しているのが道林禪師。白楽天は笏(しゃく)を持って立っている。
芦刈山 あしかりやま	謡曲「芦刈」に由来。故あって妻と離れて難波の浦で草を刈る老翁が、やがて妻との再会をはたす夫婦合の姿を表す。	
占出山 うらでやま	神功皇后が鮎を釣って戦勝の兆としたという説話にちなむ。ご神体は右手に釣竿、左手に吊り上げた鮎を持つ。前懸と胴懸には日本三景が描かれている。	
綾傘鉾 あやがさほこ	四条傘鉾と同様、山鉾の古い形態を残す傘鉾のひとつ。棒振り囃子と、大きな傘が巡行する。また6人の稚児が徒歩で巡行に参加している。	

後祭	北観音山 きたかんのんやま	楊柳観音(ようりゅうかんのん)と韋駄天(いだてん)を祀る曳山。巡行時に柳の枝を差出す。天水引は観音唐草と雲龍図を各年で使用している。
	南観音山 みなみかんのんやま	楊柳観音像と脇侍の善財童子(ぜんざいどうじ)を祀る曳山。楊柳観音像は鎌倉時代の座像。巡行には柳の大枝を差し、四隅に木彫薬玉をつける。
	橋弁慶山 はしべんけいやま	鎧姿に大長刀を持った弁慶と、橋の欄干の擬宝珠(ぎぼし)の上に立ち、右手に太刀を持った牛若丸が五条大橋で戦う姿を表す。
	役行者山 えんのぎょうじゃやま	ご神体として役行者と一言主神(ひとことぬしのかみ)、葛城神(かつらぎのかみ)の三体を祀る。修験道の祖、役行者が一言主神を使って葛城と大峰の間に橋をかけたという伝承による。
	鯉山 こいやま	中国の龍門の滝を登る鯉の勇姿を表す。朱の鳥居を立て、奥の祠に素盞鳴尊を祀る。前懸、胴懸、水引、見送などは16世紀の毛織。
	八幡山 はちまんやま	町内に祀られている八幡宮を山の上に勧請したもの。山の上の小祠は総金箔で、江戸時代の天明年間(1781～1789)に製作されたもの。
	鈴鹿山 すずかやま	伊勢国鈴鹿山で人々を苦しめた悪鬼を退治した鈴鹿権現を、女人の姿で表す。金の鳥帽子をかぶり、手には大長刀を持っている。
	黒主山 くろぬしやま	謡曲「志賀」にちなみ、歌人の大伴黒主が桜の花を仰ぎ眺めている姿を表す。山に飾った桜の造花は、戸口に挿すと悪事除けになるといわれている。
	浄妙山 じょうみょうやま	平家物語に登場する、宇治川橋の合戦にちなむ。三井寺の僧兵・筒井浄妙(つついじょうみょう)と、その頭上を飛び越えて先陣をとった一乗法師(いちらいほうし)を表す。
	大船鉾 おおふねほこ	前祭の船鉾が出陣船鉾と称されるのに対し、凱旋船鉾といわれる。約150年間、休み山であったが、平成26年(2014)より完全復興して巡行に参加している。